

# ごめんね、へたで

by Kazutaro FUKUSAKI

さて、昨年来の『OH! WOO!!』の総合ビジュアル化の追風に乗って、起債、じゃなくて鬼才・福崎大先生がお送りする、心象風景連載。その名も『ごめんね、ベタで』

まったくもって不器用、そして中学時代の美術の成績がコンスタントにアヒルさんだったという、エゴは強くても英語と絵ゴコロにはカラキシ弱い、という既裁、じゃなくて鬼才・福崎大先生。彼が大胆にも全国63万の『OH! WOO!!』読者を前に、稚拙にして下卑、無知にして無謀ともとれる、「イラスト」の連載を強行するとは、いったい何があったのか。そして、連載と呼べる回数だけ、続けることが出来るのか。心配もたいへん尽きない。ここらあたりを、本人に直接インタビューしてみた。

インタビュー — まず今回、イラストの連載を始めるにあたって動機からどうぞ。

福崎 — どくどくどくどくどっきんどっきん、動悸い！という冗談はさて置いてですね、まあ、その総合ビジュアル化というのですね、一つの時流に乗ったというのですか、私の内なる創作欲求と時代とがですね、こう100年来の邂逅を迎えた、というのですね、その、えと、

インタビュー — なるほど、次に、多くの読者が、あなたの連載の持続に？を出してますが。

福崎 — 私自身も？です。とりあえず、3回を目標に・・・。

インタビュー — どのような内容のものになるのですか。

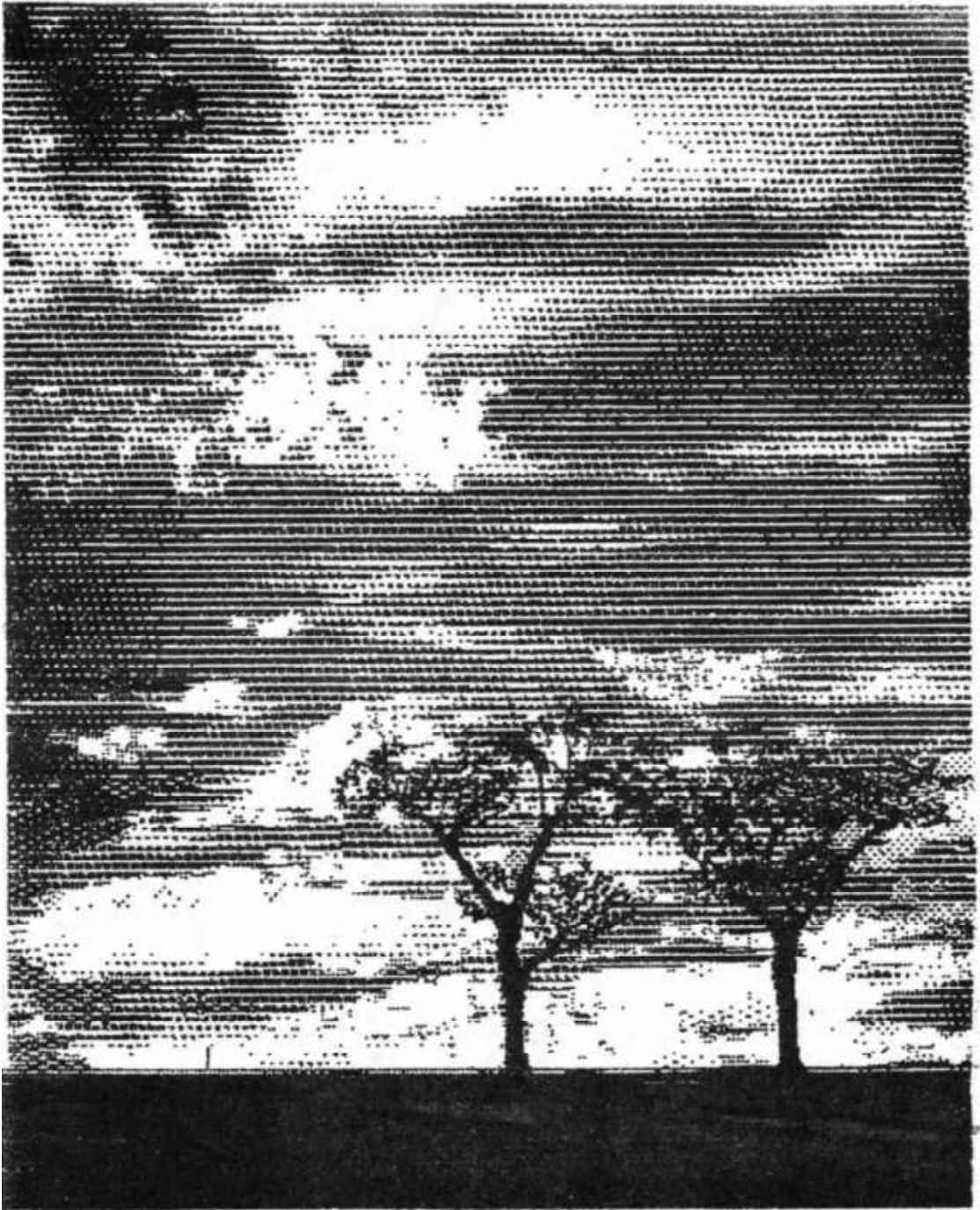
福崎 — 基本としてはですね、コンピューターを道具にですね、写真を素にして、それらをですね、自分勝手に作り変えたもの、というのですね、

インタビュー — なるほど、最後にタイトルの意味は？

福崎 — この本は、印刷をファックスと輪転機で行なっているようなので、黒っぽい原稿は、印刷の方にとって至難である、と聞いています。特にベタ（黒塗り）は、インクは乾かないし上下のページはくっつくし、大変であると聞いています。また、刷り上がった原稿を折る織姫の方の中で手が油っぽい方は、ページを汚さないように、それはそれは大変な気苦労だとも聞いています。そういった意味から「ごめんなさいね、ベタ原稿で」という気持ちを込めてつけました。

インタビュー — 「ごめんね、へたで」という意味じゃないのですか！

福崎 — そ、それも・・・あります、けど・・・。



第1回 夕焼け小焼けで陽が暮れて — 残照